

貸 借 対 照 表

(2019年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
[資産の部]		[負債の部]	
流 動 資 産	(6,919,560)	流 動 負 債	(5,924,262)
現金及び預金	5,591,877	未 払 金	379,162
前 払 費 用	57,945	未 払 費 用	328,015
未 収 入 金	1,267,292	未 払 法 人 税 等	303,819
そ の 他	2,444	未 払 消 費 税 等	135,647
		預 り 金	3,885,526
固 定 資 産	(1,699,193)	前 受 収 益	738,924
(有形固定資産)	(563,806)	解 約 返 戻 引 当 金	25,948
建 物	362,063	賞 与 引 当 金	127,218
器 具 備 品	193,783		
建 設 仮 勘 定	7,959	固 定 負 債	(253,150)
(無形固定資産)	(472,133)	長 期 前 受 収 益	113,628
ソ フ ト ウ ェ ア	466,731	資 産 除 去 債 務	139,522
そ の 他	5,402		
(投資その他の資産)	(663,253)	負 債 合 計	6,177,413
投 資 有 価 証 券	2,287	[純資産の部]	
差 入 保 証 金	212,414	株 主 資 本	(2,441,340)
前 払 年 金 費 用	3,052	資 本 金	250,000
繰 延 税 金 資 産	407,625	資 本 剰 余 金	25,023
そ の 他	37,874	資 本 準 備 金	19,000
		そ の 他 資 本 剰 余 金	6,023
		利 益 剰 余 金	2,166,316
		利 益 準 備 金	62,500
		そ の 他 利 益 剰 余 金	2,103,816
		繰 越 利 益 剰 余 金	2,103,816
		純 資 産 合 計	2,441,340
資 産 合 計	8,618,753	負 債 及 び 純 資 産 合 計	8,618,753

(注) 金額は表示単位未満を切り捨てて記載しております。

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券（市場価格のないもの）・・・移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

経済的耐用年数に基づく定額法によっております。

なお、主な資産の経済的耐用年数として、下記の年数を採用しております。

建 物・・・・・・・・・・・・・・10年～15年

器具備品・・・・・・・・・・・・・・3年～6年

(2) 無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 解約返戻引当金

保険契約者の早期解約による代理店手数料の返戻に備えるため、返戻見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与に備え、支給見込額のうち当事業年度に対応する負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備え、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。なお、当事業年度末については、年金資産見込額が退職給付債務見込額に数理計算上の差異を加減した額を超過しているため、超過額を前払年金費用として計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により翌事業年度から費用処理することとしております。

4. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理方法

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

5. 表示方法の変更（『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の摘要に伴う変更）

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号2018年2月16日）を当事業年度から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

（ 貸借対照表に関する注記 ）

1. 有形固定資産の減価償却累計額	613,076 千円
2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務	
短期金銭債権	11,296 千円
長期金銭債権	28,558 千円
短期金銭債務	110,440 千円

（ 税効果会計に関する注記 ）

1. 繰延税金資産の主な原因別の内訳

繰延税金資産

未払金	3,541 千円
未払費用	8,796 千円
未払事業税	17,525 千円
賞与引当金	38,547 千円
前受収益	221,649 千円
解約返戻引当金	7,862 千円
有形固定資産	24,071 千円
無形固定資産	1,992 千円
資産除去債務	42,275 千円
長期前受収益	34,429 千円
投資有価証券	23,547 千円
その他	309 千円
繰延税金資産合計	424,549 千円

繰延税金負債

資産除去費用	△15,999 千円
前払年金費用	△924 千円
繰延税金負債合計	△16,924 千円
繰延税金資産の純額	407,625 千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異原因

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の差異の100分の5以下であるため記載を省略しております。

(関連当事者との取引に関する注記)

1. 親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	議決権の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
			役員の 兼任等	事業上の 関係				
親会社	株式会社 イオン銀行	被所有 99.0	兼任 1人	銀行取引	資金の預入(注1) 利息の受取	865,987 9	預金	1,119,251
				店舗の賃借	地代家賃の支払(注2)	83,590	未払費用	11,276
					差入保証金の差入 差入保証金の返還	2,880 5,667	差入保証金	25,628
親会社	イオンフィ ナンシャル サービス株 式会社	被所有 99.0 (間接 99.0)	兼任 2人	経営指導受入及び ブランド利用	経営指導料及びブランド 利用料の支払(注3)	169,407	未払費用	91,481

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 資金の預入については、一般取引と同様の条件によっております。

なお、資金の預入に係る取引金額は平均残高を記載しております。

(注2) 店舗の賃借については、一般取引条件を勘案して合理的に決定しております。

(注3) 経営指導料及びブランド利用料の支払については、一般的取引条件を参考に契約により決定しています。

(注4) 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 兄弟会社等

属性	会社等の名称	議決権の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
			役員の 兼任等	事業上の 関係				
親会社の子会社	イオンレジ ットサービス 株式会社	なし	-	システムの利用	システム使用料の支払 (注1)	170,080	未払金	15,719
				店舗の賃借	地代家賃の支払(注2) 差入保証金の返還	16,820 △6,107	未払費用 差入保証金	1,288 1,719
親会社の子会社	イオンモール 株式会社	なし	-	店舗の賃借	地代家賃の支払(注2) 差入保証金の差入	109,421 7,263	未払費用 差入保証金	2,313 90,654
親会社の子会社	イオンリテール 株式会社	なし	-	店舗の賃借	地代家賃の支払(注2) 差入保証金の差入	83,101 4,828	前払費用 未払費用 差入保証金	967 9,407 48,219

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 情報利用料及びシステム使用料については、一般的取引条件を参考に契約により決定しております。

(注2) 店舗の賃借については、一般取引条件を勘案して合理的に決定しております。

(注3) 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額 6,143.28 円

2. 1株当たり当期純利益 2,667.18 円

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はございません。

(当期純損益金額)

当期純利益 1,059,940 千円